[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-001
国立国会図書館

是い種倉殿乃侍内丁ぎ野小
字成ようしびでそもお国ぶ侍子
重剛ていぶ度一谷の合戦丁
主播き竹ひ作を家敦重ヤて作
ぎ敦乃侍すとけヤなるこ我敦
ゆるりーき思召まぢく痛りる重
ヤをとの侍うそていぶ姫はも

17.10.-6 国会図

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-002
国立国会図書館

千手濱まへをはしりハさて作
ば千重平まへとやちぐ重こ乃
長り甘ひめこのゆの乃り
屋さ〳〵ハさんとそばまちこのさ石
はしり社ハ千重平社山事
ぼまあまこ〳〵きた心さこ〳〵
はま坐仏ぞハさて又雨中はアまく

はをハ〳〵先やさりや心さ春山
（三ツ六分ヒ）
稚の者こうへてをとはふ〳〵く
（下ニ）
見屋あはまやなふ〳〵世（サレ）こう社
ま思さふ乃社歌ふさう毎紙乃
はなる水屋乃志はせもぜの
さう形さ乃あまさまぜ〳〵も
あり社や重郷のぞいへハ

[illegible]
[illegible]
波よたゝよひ船にうらゞゝた
[illegible]
よゝゝ乃よそなゝてゝあるましよ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

げきりゝ貴をもたてやさふしる
ちゝは（ミケヒラサシ）ヲ名たる槿花一日榮
こゝにこゝにこゝにこゝに
あゝ蜉蝣ゆめ空なるよゝたわ
こゝにこゝにこゝにこゝに
心い義武りゝ於國乃ゝゝ社
こゝにこゝにこゝにこゝに
哀寡乃うちゝ小藝ゝ社て君を戒
こゝにこゝにこゝにこゝに
主ぬちゝ孫ちゝ社ハやまゝこの
こゝにこゝにこゝにこゝに
ちゝわちゝふゝ顔をほゝ社

（ヒキ詞）
こゝにこゝにこゝにこゝに
田里ようゝゝる家を門庭をふく
こゝにこゝにこゝにこゝに
歌詠よこめゝゝ社富ゆいをけ乃
こゝにこゝにこゝにこゝに
を思ふまゝ成ふまゝ成ふもや
こゝにこゝにこゝにこゝに
かきわなゝ世ぶゝ空めるやゝ

（ミケ詞）
ゝゝ世ゝ社ハ千金の付家ゝて作
ちゝちゝなゝ乃ちあふゝけう
よゝくなゝとゝまゝ成あき

ごゝは乃美面ハうるふまひと
やくゝ（半）長てしゐゐのうりや作
ばゝ糸重ゝ由ゆてくゝ長だゝよゝ
思ひしやゝ母ゝどゝは行ゝ蜀面ハ
うるふまゝきゝ由作出さゝ程くゝは
（三ノ詞）
ゝくゝ我も和ふあゝゝ寸ゝ我行ゝよゝ乃
ばゝ行ゝて現琵琶おをて糸ゝわ

ゝゝ由重ゝばゝやくゝ（半）ゝゝうゝやゝは
ばゝ行乃ゝゝやゝてくゝ長ゝゝ長ゝ和ふ
あゝゝ我行ゝよゝ母ゝゝ行ゝ行ゝて
現琵琶おをて糸重ゝわゝゝ
ばゝはゝうゝゝハさゝ長ゝゝ行ゝ
（上カル）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝさゝ形ゝへゝゝゝ主ゝゝうゝはゝゝ
（三ノ上カル）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（上三の内）
重ゝ河ゝ手ゝゝゝゝゝ素乃を

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-006
国立国会図書館

一九　一、一、二、二、二、二、
きわゝと押羽をひゞ
二、二、二下、二、二、二、二、
白ひゝゝ花乃新人よゞ
一九　一下、一、一、一、一、
なゝゝゝゝえ世賞やあ
下二、二、二、二、二、二、
果しまゝゝゝ乃さゝ
二、二、二九、二、二、二、
你きゞ赤きけゝ
二、二、二、二、二、二、
ゞ乃表もゝゝ
二、二、二、二、二、二、
まわゝゝ世三字詞ゝ
ごきのゝあゝゝゝ
出来ゝ浦服三字詞のゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝ
思ひもゝゝゝゝ
下七二、二、二、二、二、二、
ゞゝハも浦心ゝ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ニハ、ニ、ニ、ニ

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-009
国立国会図書館

[illegible]
[illegible]
たまへ世だ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]きのよ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]わかり[illegible]
上三の月
思へた[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
きめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ばもはやこの世ちうひなる
ことこゝろ
おかゝる重衡ハそ生乃宮ゟ
三ヘト
たゝ来世のたよりこそ書きこの下
ほし
ほし
宮へそ
三ヘイト
ハ
おほせ
けたまりるゞ
上
ゝ
ゝ
ゝ

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-012
国立国会図書館

こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　こゝ
や　を　せ　　森　乃　下　風　木　の　葉　の　霧
　　　

家を門ぼくそハ格乃ぞ井の水
門ぼのまゝ三河の国江
ぼ柄巻松ホるてばもやすゝす
ほ月夜鐘倉やさよへしのハ
ゝよ伝そと思ひしよかゝ成き
きくもきゝ乃ひ祝ふあり祝着を
おもひほ下の燈ゝゝゝまてゝ

物行虞氏のなんたゝ乃あ光きく
志光ゝ下ゝ乃ゝゝ上ゝ四面乃
ゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
楚歌乃聲のうちはゝうんハ
兼乃舞思ひ乃ゝよやゝ出めゝ甘
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
淚をうへて見くゝハもぼきゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山ふえ行ゝまてゝふゝ解きゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
千年のうてゝゝゝゝ重てゝゝゝゝゝ

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-013
国立国会図書館

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-014
国立国会図書館

あさぎめ 一松の陰や
ごゝの水 人間見物をうらやましく
いつしか百姓子をうらやましく
そもそも貴重御くるまよ楽しく
瑞雲をあらよきたる物へてみ
たまはるの弦音よ あらをそ
きけや 乃松のをかよひ

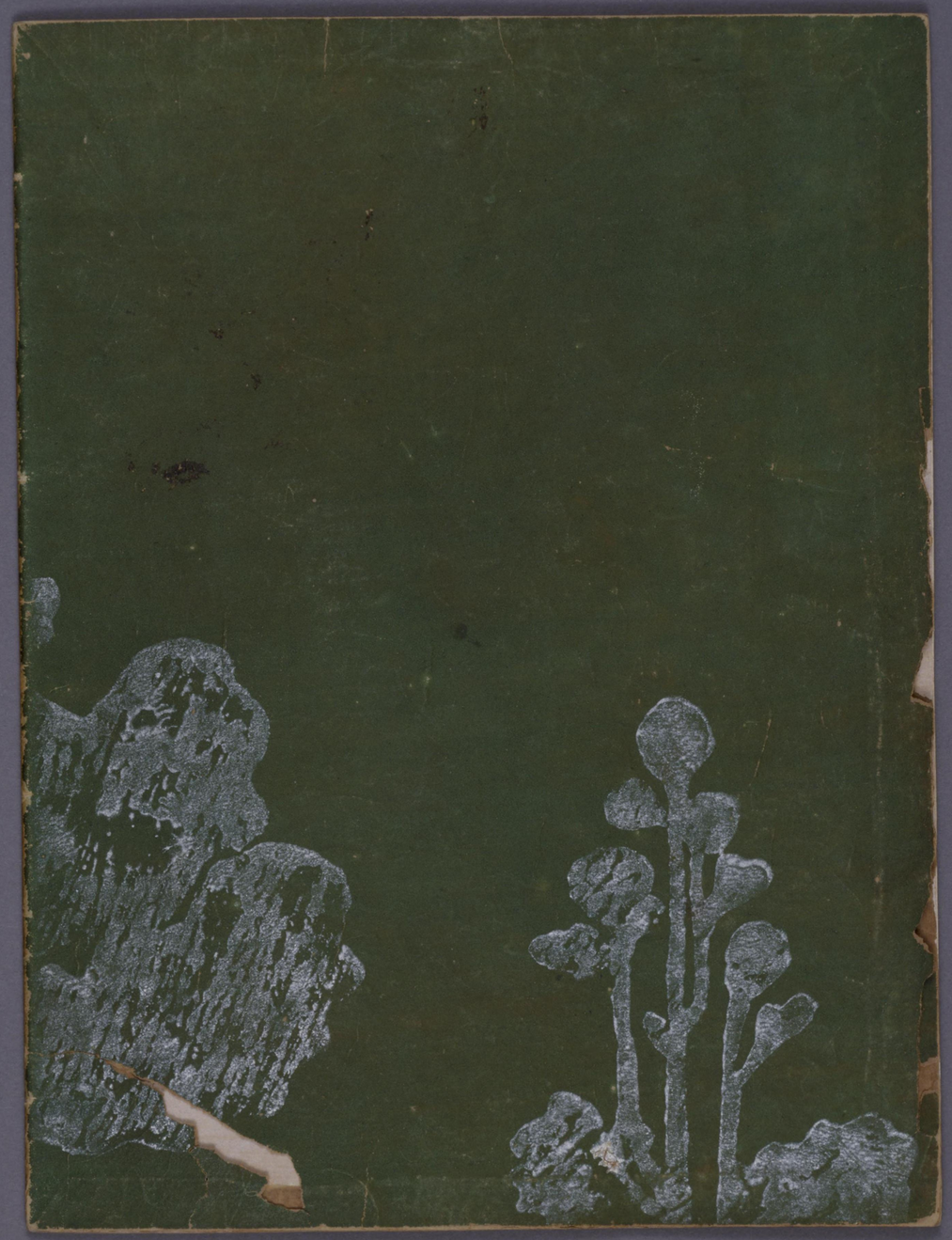
きよらかわ瑞を松乃尾の和泉
なたゝ祝ゆめも程なく藤目も
ほのぐ生ぜあくわるるそうの乃
洲賀ゆや業ぬへ業 洲賀るや
まわなんとゞ海面をや見たまふ
こゝ時のうちうりふり業
月
かくて去々ひゝ和よるまゞく

ゞあるとあるしのいづもおくふ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雪薄ー出たまへる　千手も
ゝゝゝ

国立国会図書館

[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-016

国立国会図書館



[謡本] 千手重平 1冊 WA7- 050-017
国立国会図書館